

千葉都心ウォーカブル推進社会実験 CHIBA NOKI-NYOKI Project

実施概要

目的： 道路・公園の公共空間と市街地の民地空間との一体的かつ日常的な利活用可能性を検証するとともに、多様な人が多様な使い方のできる「居心地の良い空間づくり」を推進。

3密を回避した飲食店のテラス営業、感染リスクを抑えた屋外空間での過ごし方など、ポストコロナの新しい日常への対応も見据えた取組みでもある。

実施箇所： 千葉駅西口エリア

(ウェストリオ2前歩道・歩行者デッキ・駅前広場・新千葉公園)

千葉公園エリア

(千葉公園通り・公園前歩道・千葉公園南門付近)

実施期間： (千葉駅西口エリア) 令和2年8月31日～

(千葉公園エリア) 令和2年9月30日～

～令和3年8月31日

参加店舗： (千葉駅西口エリア) 9店舗

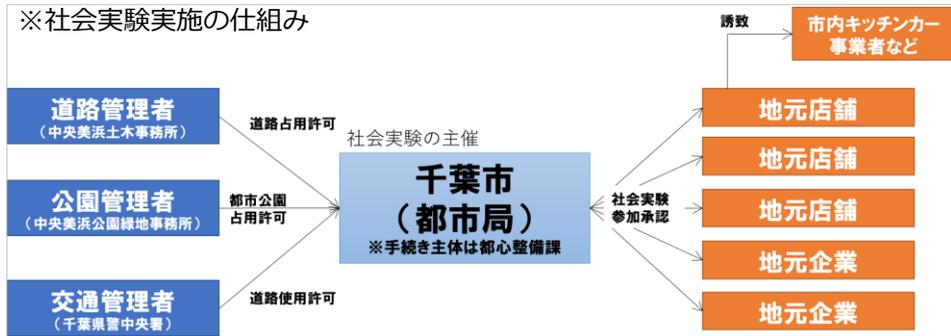
(※延べ10店舗。現状は9店舗)

(千葉公園エリア) 10店舗

主催： 千葉市



※社会実験実施の仕組み



千葉都心ウォークアブル推進社会実験 CHIBA NOKI-NYOKI Project

社会実験の経過報告

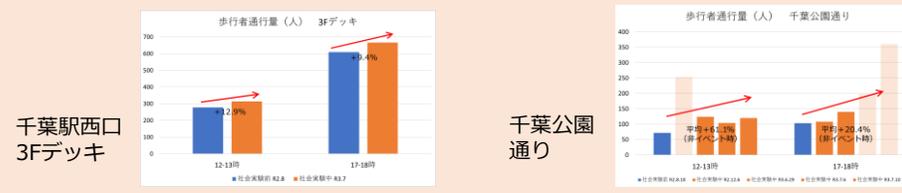
(1) 定量的指標を用いた検証結果

実験前後で比較	①アクティビティ「種類数」	②遊歩道や公園での「滞在時間」	③沿道飲食店の「売上金額」	④自転車、歩行者の「通行台数・人数」	⑤自転車の「通過速度」
千葉駅西口エリア	○ アクティビティ 一部増加傾向	○ 滞在時間 一部増加傾向	◎ 売上金額 増加傾向	○ 歩行者 増加傾向 自転車 増加傾向	-
千葉公園エリア	◎ アクティビティ 増加傾向	◎ 滞在時間 増加傾向	△ 売上金額 減少傾向	◎ 歩行者 増加傾向 自転車 減少傾向	◎ 通過速度 低下傾向

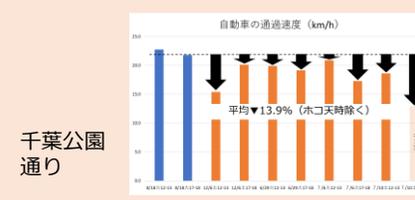
- 「多様な利活用」を引き出し、「滞在性の向上」を確認。
(アクティビティ種類数増加、滞在時間増加)



- 歩行者通行量の増加による「ひと中心の空間づくり」を確認。
(歩行者通行量の増加)

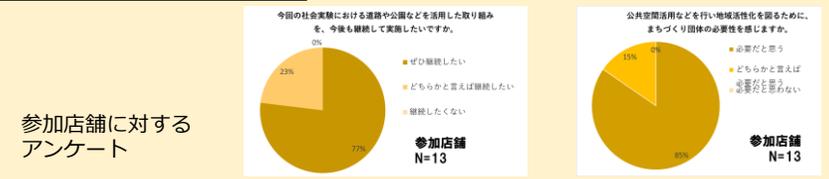


- 千葉公園通り：
安全対策設置による
「安全性の向上」を確認。
(自動車通過速度の低下)



(2) アンケート調査結果 (R3.6~7月実施)

- 参加店舗の多くが「社会実験の継続」「まちづくり団体の必要性」に前向きな回答



- 千葉公園通り：安全対策の手法改善意見が多数あったものの、安全性向上に関しては前向き評価



- ▼主な意見
- 荷物の搬入がしづらい
 - 歩行者が通行しづらい
 - 車道を歩く人が増えてしまった
 - 工事中を思わせるため、色の変更をすべき
 - 店舗との統一感など見た目への配慮をするべき

延長理由：

- ① ポストコロナを見据えて始めた社会実験ではあったが、依然として感染状況の見通しは厳しく、改めて、ウィズコロナも含めて、公共空間を活用し、3密を回避した飲食店のテラス営業、感染リスクを抑えた屋外空間での過ごし方など新たなライフスタイルとしての可能性検証を行う。
また、エリアの価値向上を目指した公共空間活用の取組みを、民間主体で運営できるよう、体制づくりやエリア内の意識醸成を進める。
- ② 千葉駅周辺の活性化グランドデザインに掲げる各エリアの将来ビジョン実現のために、千葉駅西口周辺の再開発や千葉公園再整備と連動し、具体的な取組みに繋げる必要がある。
- ③ 令和3年6,7月に実施したアンケート調査の結果、多くの参加店舗が「社会実験の継続」による公共空間の利活用を希望している。

社会実験期間の延長概要

延長方針：令和4年8月31日まで1年間、実施期間を延長
 実施体制：引き続き、主催 千葉市
 ※延長期間中、並行して、民間主体の体制の整備を進め、調い次第、体制の変更を行うことも見据える